

## 腎機能の経過をみよう (GFRのグラフ)

特定健診結果から尿検査とeGFRを表に書き入れてみましょう

私の 腎 指 標	検査年月日																			
	年 齢																			
	eGFR (ml/min/1.73m <sup>2</sup> )																			
	クレアチニン																			
	尿蛋白																			
	アルブミン尿																			
尿潜血																				
検査機関																				
G F R 区 分	G1	正常または高値	90																	
	G2	正常または 軽度低下	80																	
			70																	
			60																	
	G3a	軽度～ 中等度低下	45																	
	G3b	中等度～ 高度低下	40																	
G4	高度低下	30																		
G5	高度低下～ 末期腎不全	15																		

慢性腎臓病（CKD）の定義 &lt;①または②のいずれか、または両方が3カ月以上持続することで診断する&gt;

①尿異常、画像診断、血液、病理で腎障害の存在が明らかなこと

特に0.15 g/gCr以上の蛋白尿（30mg/gCr以上のアルブミン尿）の存在が重要

②GFR <60ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満

酵素法で測定されたCr値を用いる。18歳以上に適用する

腎臓専門医への  
紹介基準

- ①高度の蛋白尿 A3区分（尿アルブミン 300mg/gCr以上、尿蛋白 0.50g/gCr以上、または+ 以上）
- ②微量アルブミン尿（尿蛋白 0.15～0.49g/gCr） A2区分でGFR区分がG3a以上
- ③尿蛋白正常区分 A1区分でGFR区分がG3b以上
- ④尿蛋白区分がA2であっても、血尿（+）ならGFR区分G1、G2も紹介
- ⑤尿蛋白区分がA1でも40歳未満でGFR区分がG3aの場合は紹介

&lt;CKD診療ガイドライン2018・2023（日本腎臓学会編）より&gt;